



知事 コラム

地球温暖化と省エネ

4月30日の時点でこのコラムを書いています。4月の初めに寒い日が続き、統一地方選挙の前半戦の頃には雪交じりの雨が降っていました。ところが、中旬からはいきなり初夏を思わせる気候になりました。心地良い春と秋が短くなり、夏と冬が長くなったと感じるのは私だけではないようです。

都市化の進展によるヒートアイランド現象もあり、各地の気温上昇が統計上も明らかになっています。熊谷市における夏日(最高気温が25度以上)の日数は、1975年から84年では年平均108日でしたが、直近の10年間の平均は129日です。熱帯夜(夜間の最低気温が25度以上)の日数はもっと顕著で、1975年から84年の年平均2.9日が、直近10年の平均では13日と4倍以上に増えています。

さらに、日本を含む世界中で豪雨が多発しています。昨年2月には本県にも記録的な大雪が降りました。こうした異常気象の背景には、地球温暖化の影響があると言われています。

このため、世界各国で温室効果ガスの削減に取り組んでいますが、福島第一原子力発電所の事故後に火力発電が増えたため、日本のCO₂排出量は事故前に比べて増えています。

部門別で見ると、2013年度の運輸部門(自動車など)の排出量は排ガス規制の効果もあり、2005年度比で6.3%減っています。産業部門も省エネの徹底で6.0%減っています。

逆に家庭部門は11.9%増えています。家電製品の省エネ化は進んでいますが、核家族化による世帯増や製品の多様化で、家電製品の

数が増えているためと考えられます。

埼玉県では、太陽光発電でエネルギーの地産地消を進める「埼玉エコタウンプロジェクト」や、究極のクリーンエネルギーである水素エネルギーの普及に力を入れ、地球温暖化の防止と原発に頼らない社会の構築に努めています。

県民の皆さんには、ぜひとも省エネにご協力をお願いします。



埼玉県知事 上田 清司